

Eureka VIII

六年制通信 No.23 令和2年11月6日(金)号

物語の要約

昔の海軍のモットーに「簡潔明瞭を旨とすべし」というのがありました。海軍は長つたらしいことを極端に嫌つたらしい。確かに、戦闘集団ですから常に有事に備えていなければならないわけで、従って時間のかかる説明など聞いていられなかったでしょうし、文意が明瞭でなければ適切な決断が下せるわけがないですね。

話の長い人や何を言っているのかわからない人が時々います。何でもない雑談ならいいでしょうが、誰かに何かを正確に伝えなければならないような場合は(仕事をしていれば普通にある状況ですが)困ります。海軍に限らず「簡潔にして明瞭」であることは重要なことです。簡潔にするということは要約するということです。つまり、大切な部分だけを取り出してわかりやすく配列することです。

要約する力、これは言語活動の中でも特に身につけてほしい能力ですが、どうすれば手に入るのでしょうか。例えば物語を読んで要約しようとするとき、どういう点に気をつければいいのでしょうか。要約に上手下手があるのはなぜなのでしょう。私もよく聞かれます。私は要約の力は訓練で身につくと考えています。訓練もしないでただ物語を読んで、さあ要約してごらんと言われてもできなくて当然です。

要約の訓練には、物語を読み始めるときの意識を変えることが必要だと思います。物語の構成を意識して読むのです。物語の構成を知っている人と知らない人では、頭の中で整理のつき方が違うはずですから。面倒なようですが、実はこれが一番大切なのです。物語は普通五つのパートから作られています。冒頭、発端、山場、頂点、結末です。それぞれを説明しますから、何でもいいので、君の良く知っている物語(本でも映画でもいいから)を思い出しながら読んで下さい。

冒頭：状況の設定。主人公の紹介。場所、時代など。

発端：問題発生。事件勃発。状況の複雑化。主人公の置かれる立場が悪化する。

山場：物語は大きく展開。読み手の緊張感が増幅。ハラハラドキドキの設定が普通3回用意される。

頂点：事件が大きく転換。ハッピーエンドへの予感。

結末：発端に始まった問題が急速に解決。大団円。推理小説ならここで一気にすべての謎が解ける。読み手のカタルシス。

だいたい以上のような内容ですが、君たちの思い出した物語の構成はどのようになっていましたか。もちろん物語によっては冒頭部分に工夫があって、先に事件の概要が述べられていたりします。極端な場合、途中から主人公が変更されたりすることが

あります。また、短編と長編では山場の数もずいぶん違ってきます。好きな物語を冒頭から結論まで書き出してみたら。書くと考えが整理されますよ。

では今、童話「白雪姫」で、それぞれに該当する部分を書いてみましょう。

冒頭：ある国に雪のように美しい姫が誕生し、白雪姫と名づけられる。母親は死んで新しい国王は再婚する。白雪姫にとっては継母。

発端：魔法の鏡に「白雪姫はあなたより美しい」と言われ、継母は白雪姫の殺害を命じる。しかし狩人は姫を憐れみ逃がす。姫は七人の小人と森で暮らす。

山場：白雪姫が生きていることを知った継母は、自分で殺害しようとする。

1. 紐で首を絞めたが失敗。2. 櫛に毒を仕込んだが失敗。3. 毒リンゴを食べさせて殺害。白雪姫は目を覚まさない。

頂点：隣国の王子が森で道に迷い、白雪姫の柩を見つける。王子は白雪姫に魅かれる。柩を動かした拍子に毒リンゴが吐き出され白雪姫は目を覚ます。

結末：二人は結ばれる。結婚式を見に来た継母は、焼けた鉄の靴を履かされ死ぬまで踊らされる。(結末は別バージョンがいくつかあります)

さて、いかがでしょうか。「白雪姫」の要約をする場合、上に挙げた冒頭から結末までを並べただけでも 300 字を超えています。ここから、では 200 字で、次に 500 字でと訓練をしていきます。そうすると、何度も読むことになりやすから理解も深まります。理解が深まると、物語には本質の部分と枝葉のエピソードがあることが分かってきます。君たちも自分の好きな物語で訓練してみてください。導入としては『走れメロス』なんかいいんじゃないかな。ただし、「桃太郎」を「鬼退治の話」と 5 文字で要約した人がいますが、こんなのはタイトルであって要約ではありませんからね。短くすればいいというものではありません。念のため。

今週のおすすめ

・ 帯木蓬生 『風花病棟』 (新潮文庫)

前々回でも書きましたが、この著者の小説は『閉鎖病棟』しか読んでいなかったの、もう一冊読もうと思って選んだのがこの短編集です。主人公は 10 名の医者。それぞれの物語。私は「顔」が印象に残っています。まだほんの子供のころ「愛と死を見つめて」というドラマがあって同名の主題歌は、その悲しい歌詞とともに今でも覚えています。若い男女の実話をもとに作られたドラマですが、ヒロインが不治の病に侵されるのですね。確か骨肉腫でしたか、それで顔の半分を失うことになるのです。子供のころでしたから、そんな病気があることを信じていなかった記憶があります。

今回「顔」を読んで、そんなことを思い出していました。本書では「致死性正中肉芽腫」となっていました。著者は医者でもあるのでこれが正しい病名なのでしょう。

病に苦しむ妻と献身的に支える夫。その夫を信頼している妻。この病気とは別の疾患の疑いでたまたま診察した医者の目から見た夫婦愛と苦悩が描かれます。しかも、妻の名前に見覚えがあるような…。あとは読んでみてください。

BGM は エルビス・プレスリー の *It's Now or Never* でした…。